



ポーランド舞台演出家

クシシュトフ・ポピオウエク

来日特別講演会

「語り」の危機における物語の普遍化

使用言語：ポーランド語（日本語通訳あり）

2024年10月10日 17時45分 東京外国語大学 研究講義棟 322教室



Ministerstwo Kultury
i Dziedzictwa Narodowego

Dofinansowano ze środków
Ministra Kultury i Dziedzictwa
Narodowego pochodzących
z Funduszu Promocji Kultury



ポーランド広報文化センター
INSTYTUT POLSKI TOKIO



テアトル・カナ 来日公演
『可能世界』

2024年10月11日～13日
シアターX（両国）にて

・主催：テアトル・カナ
・共催：東京外国語大学ポーランド語専攻、ポーランド広報文化センター
・お問い合わせ先：yumeko.kawamoto@gmail.com（川本夢子）

「語り」の危機における物語の普遍化

21世紀に世界で起こっている様々な変化は、いまを生きる私たちに大きな影響を及ぼしています。現在ヨーロッパでは、社会全体に感じられる疲弊、過剰な情報量、絶え間ない緊張状態の中で不安や脅威を感じる生活の異常さを指摘する声が多くあがっています。新たな武力衝突、パンデミック、物価高騰、移民問題、気候変動…多くの分野で同時に進んでいる変化は、私たちが世界についてどう考え、どう語るかというコミュニケーションの方法にもまた、大きな影響を与えているのです。今回の講義では、激動の時代におけるこのコミュニケーションの方法について、皆さんとお話したいと思っています。

現代社会のグローバルな課題に対し、私はいま、創造性を活かしたアプローチを模索しているところです。それぞれの地域で生まれた文化的財産をテキストの形で取り上げ、そこに潜む普遍的な価値を強調し、文化的背景や言語の違いを超えた対話を可能にする、「物語の普遍化」の実現に取り組んでいます。私にとって、国際フェスティバルや文化イベントの場は、いま私たちが世界をどう生きているのか、何を思っているのかを知ることのとても貴重な機会です。特に演劇を通して伝えられる「語り」は、世論や風潮、迫り来る変化を読み取るためのバロメーターとしてのみならず、文化外交のための非常に重要なツールとしても捉えることができます。演劇というメディアは、私にとって思想と価値観を伝え合う手段であり、演劇作品は、同じ現実社会を共に見つめながら、異文化間の対話を可能にする、貴重な国際コミュニケーション媒体なのです。

「物語の普遍化」に取り組むことで、異なる言語や文化を背景に持つ人々の相互理解に、どう貢献できるのでしょうか。演劇作品は、価値観を伝えるための翻訳ツールとして応用できるのでしょうか。「語り」の共有は、グローバルな危機や対立を緩和する手段となり得るのでしょうか。ヨーロッパの劇場に、移民として世界各地から観客が集まる時代となったいま、演劇はコミュニケーションのツールとして機能するのでしょうか。

普遍的に語るとは、何か。言語や文化を超えた価値の共有は、果たして可能なのか。その答えを、皆さんと一緒に探りたいと思います。

クシシュトフ・ポピオウエク

ポーランドの舞台演出家、大学講師、アートキュレーター。2024年、ポーランド・クラクフの演劇アカデミーにて博士号（芸術）を取得。また、文化外交のディプロマコースも修了している。ポーランド・シュチェチンのテアトル・カナと演劇作品の共同制作を行っており、2021年には、イタリアのミラノにて開催されたテレサ・ポモドーロ国際演劇コンペティションでグランプリを受賞。

